

平成28年1月4日の仕事始め式でのあいさつです。

あいさつ、声掛けをしよう

あけましておめでとうございます。

今年も、よろしくお願いいたします。

昨年末の仕事納めの際、私からみなさんに「あいさつをしよう」と伝えさせていただきました。私が、あいさつしようと繰り返しお願いするのは、なぜなのか、みなさんにもう一度理解してもらうためにお話をしたいと思います。



福祉の分野に「地域包括ケア」という言葉があります。

これまでは、Aさんという1人に対し、医師、看護師、栄養士、保健師、介護士等といった個別の専門家がそれぞれ対応していました。これからは、専門家が連携して、「Aさんを良くするにはどうしたらいいか」を一緒に考え、対応していくことが求められています。それが「地域包括ケア」です。

長久手市でも、「愛・ながくて夢ネット」といって市内の医療・介護・福祉等の在宅療養に関わる情報を、電子的に管理するシステムはできましたが、まだまだ上手く連携が進んでいません。

なぜ、上手く連携が進んでいないのか？ それは、専門家同士が、お互いに知り合うことができていないからだと思います。これから医者の方にも、「患者さんに対してだけでなく、先生同士もぜひ、あいさつをしてください」とお願いをしていくつもりです。

これは、福祉の分野だけの話でなく、市役所でも同じことが言えます。「私は福祉部だから」「私は建設部だから」などと言って、縦割りで業務にあたるのではなく、職員同士が連携して市民に向き合ってください。そのための第一歩が、職員同士、そして市民の方に対して、あいさつを交わすこと、声を掛け合うことです。

これまでは、あいさつができていない職員を見かけても、私は厳しく言ってきませんでしたが、これからは積極的に「あいさつしよう」と声掛けをしていくつもりです。

まちへ出よう

2つ目に、まち（現場）に出てほしいのです。また、市外に先進的な良い事例があれば、どんどん出張して学んで来てもらい、私に提案をしてください。

以前、職員にどうしてまちへ出られないのか尋ねたところ、「決裁が多い」「残業が多い」といった答えが返ってきました。

今、これらの問題を解決するため、決裁半減化について検討してもらっています。残業についても、部下が残業する場合は、課長も残り、なぜ残業が多いのか、課内において仕事の割振りに問題はないのか等を考えてもらうようお願いをしています。私へのレクチャーの際も、極力、同席する人数を減らすように指示を出しています。

3つ目は、事業計画は、策定する段階から多くの市民に参加してもらうことです。計画策定に参加する市民の人数を目標値の一つとするようにしていきます。これまで役所は、計画を作るまでのことを一生懸命に取り組み、計画を策定してから、市民に知らせていました。また、かつては建物を作ってから、市民のみなさんに使い方を考えてもらっていました。それでは、市民のみなさんは、どう参加して良いか分かりません。

例えば、長久手古戦場公園の再整備を考えたとき、公園内に木造の建物を作ろうとすれば、壁の土塗りや障子貼りなど、子どもから大人までみんなが携わることが出来ます。計画を作る、計画に基づいて整備する作業、そして整備してからも市民が携われるような仕組みになれば、多くの市民が関心を持ってくれるようになるはずですよ。

時間はかかるかもしれませんが、多くの人々が携わることができる仕組みがあることが大切であり、それが、思い入れのある施設になり、より多くの市民に使ってもらえることにつながるのではないのでしょうか。

ぜひ、市民のみなさんにも、自分達で地域を作っていくことを始めてもらえたらと思っています。

体に気を付けて、今年も一緒に頑張りましょう。

